練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP　http://www.shikinokaori-e.nerima-tky.ed.jp/

＜ １１月 号 ＞

令和２年１１月２日

TEL　03-3977-2711

校　長 高 野 博 文

第１１７号

こどもらしく

主幹教諭　　久　保　慶　介

１０月１９日（月）より第２期が始まりました。令和２年度も早いもので折り返し地点を迎えています。２ヶ月の休校、６月から始まった分散登校、夏休みの短縮。学校では新しい学習指導要領が始まり、新しい教科・領域の学習が始まったり、「あゆみ」の項目も変わったりと今まで「あたりまえ」だったものが「あたりまえ」にならない毎日が続いています。これからの時代を生きるこどもたちには新しい価値を見出す力が求められます。学校でも「zoom」を使って集会が行われ、画面を通して教室がつながると新たな取組が始まりました。変化する社会に対応した「不易と流行」を大切にしていきたいと思う今日この頃です。

さて、みなさんは「三木卓さん」という人をご存じでしょうか。長くにわたり教科書に掲載されたある作品の訳者の一人です、私が子供の時にも教科書に掲載されている作品ですから、多くの人から支持され愛された作品とも言えます。４０年以上も前にかえるくんとがまくんに出会った三木さんは、作品から生き物への愛、包容力、そして思いやりを描く作者に魅力を感じ、訳してみたいと思ったそうです。誰だか分かりますか？アーノルド＝ローベルの「お手紙」を訳した人物です。

教科書に掲載されている「お手紙」は『ふたりはともだち』という作品に収められています。この作品の巻頭は「はるがきた」という作品なのですが、内容を簡単に紹介すると･･･

> 春がやってきて、冬眠しているかえるたちは目を覚ますのですが、かえるくんとがまくんでは冬眠の期間が違うため、先に目覚めたかえるくんは遊び相手のがまくんがまだ眠っていることが面白くない。出かけていって起こすが、ねむがって相手にしてくれない。そこでがまくんのカレンダーを破いて、どんどん月を進め、起きなければならない５月を出して、「がまくん、がまくん。おきなよ。･･･」という。すると、すっかりだまされてベッドからはいおり、二人は外に遊びに行くという何とも言えない素敵な作品です。

かえるくんとがまくんは、動物の姿形をしているがこどもたちの心をもって描かれています。かえるくんはがまくんと遊ぶことが自分にとって楽しいからするのであり、がまくんもまた同じなのです。自分が楽しくなるためには、ちょっとぐらい相手をだまして、早起きをさせてもいいと思っています。それは相手を考えないわがままな行動にも思われますが、たとえそれが相手に気づかれたからといって壊れてしまう二人の関係でもありません。こどもはいつだって遊び相手が必要で、その相手との付き合いにはけんかと仲直りの連続でもあります。三木さんは「ローベルの作品は、寛容にかえるくんのすることを見守っているだけで、叱ることもせず、ありのままの子どもの心を生かしながらこれだけおもしろい絵本を作っていることがとても気持ちがいいのである。」と語っています。こどもたちに長年愛される作品となった背景には、三木さんの作品の雰囲気を損なわないようにした「訳者の思い」もあるかもしれませんね。

ローベルには、かえるくんとがまくんを主人公にしたシリーズのほかにもねずみやふくろうくんを主人公にした作品もあります。１１月からは読書月間も始まります。たくさんの子どもたちが素敵な本に出会えることを願っています。そして、一雨一度、雨とともに少しずつ秋も深まって参ります。テレビやインターネットを介して様々なコンテンツも配信されていますが「不易と流行」を大切にして、素敵な一冊と出会い、秋の夜長を読書で楽しんでみてはいかがでしょうか。